



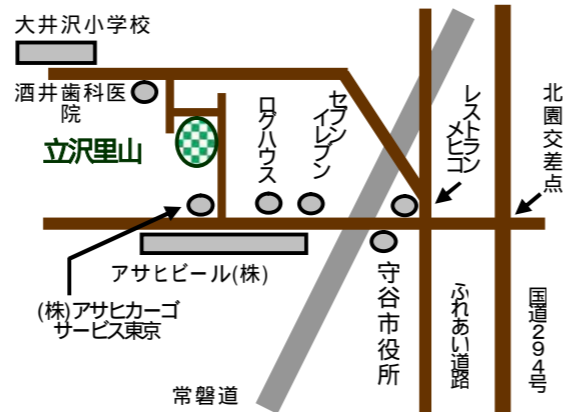
立沢里山

平成18年4月30日
里山新聞 創刊号

発行：立沢里山の会 代表 鈴木 榮
問い合わせ先：事務担当
須賀（守谷市役所内 45-111 内線 222）
立沢里山ホームページ
<http://www3.ocn.ne.jp/tatuzawa>

ボランティア募集
あなたも一緒に楽しめよう！

【案内地図】



「立沢里山新聞」の記事をお願いします
san-seino@hb.tp1.jp 清野

～目次～

- 1 平成18年度活動計画と里山祭りの開催
- 2 看板・掲示板の新築
- 3 ホームページの開設
- 4 間伐作業と木道補修
- 5 畦塗り、シロカキ作業、不耕起栽培
- 6 立沢里山祭りの企画内容
- 7 立沢里山のパンフレット完成
- 8 ザリガニの奇跡！

1 平成18年度事業計画と里山祭りの開催を決定

「立沢里山の会」は平成12年12月に活動を開始してから平成18年では6年目を迎えることとなります。

ゴミ拾いに始まり、田んぼの再生、上総堀、小学校の稲作体験など地域の皆さんの支援を得ながら、着実に成果を上げてきました。

平成18年度の事業計画は次頁のとおりですが、作業計画を会員で検討する中から、今までの実績を踏まえて、子供や地域の皆さんが気軽に参加でき自然と触れあえるイベントとして「里山祭り」をやってみようということになりました。

日時は平成18年5月14日（日）

場所は立沢里山周辺



2 看板・掲示板の新築

以前からあった入り口の看板も老朽化して壊れてしまったので新築しました。

できるだけ現場の材料を活用するというので、銘板は初代の物をそのまま再利用し、屋根は丸太でベンチを作成した際に剥いてとって置いた檜皮を乾燥させた檜皮葺という贅沢な構造です。

また、道行く人も興味を持って頂いているようなので、掲示板を兼用することとし、取水口近くの道路沿いに設置しました。里山の紹介やイベントの案内ピラなどを折々に掲示しようと思います。



平成18年活動計画

月・日・時間等	活動区分	区分
01/14(土)10:00～	里山まつり検討会	第16回会議
02/中旬	里山まつり検討会	第17回会議
03/11(土)13:30～	あぜ道づくり、除草、清掃 作業後、里山まつり検討	第23回ボランティア活動
03/25(土)13:30～	あぜ道づくり 前回で終わらない場合	会員等
04/15(土)13:30～	田んぼ代かき、除草等	会員等
05/03(水)09:00～	田んぼ代かき、除草等	会員等
05/14(日)10:00～	里山まつり	
05/15(月)10:00～ (予定)	小学生田植え 正式日程は学校と調整後	3小学校の5年生
06/24(土)09:00～	田んぼ除草等	第24回ボランティア活動
07/29(土)09:00～	除草、ゴミ収集	会員等
08/19(土)～ 08/20(日)(予定)	北守谷まつりバザー	会員等(立沢公園)
09/16(土)09:00～	稲刈り、おだ作り、除草等	第25回ボランティア活動
09/21(木)10:00～ (予定)	小学生稲刈り 正式日程は学校と調整後	3小学校の5年生
09/下旬	脱穀、籾すり	会員等
10/28(土)09:00～	除草、ゴミ収集	第26回ボランティア活動

3 ホームページの開設

里山の会の活動も軌道に乗ってきたことから、幅広く社会に情報発信しようということで「立沢里山のホームページ」の開設について昨年より検討されてきましたが、事務局の苦勞をいただき、この3月に開設となりました。ありがとうございました。

出来るだけ会員皆が協力して充実させていきましょう。

アドレスは表紙内のとおりです。

ホームページの構成は
TOPページ

里山案内：

施設概要、活動報告

里山アルバム：

自然アルバム

里山の動植物や風景

活動アルバム

稲づくり、里山祭り

いろいろ：里山日記：日々の状況などを報告しています。



4 間伐作業と木道補修

2001年に設置した木道も古くなってきて補修を繰り返すようになりました。どうしても地面に接しているために腐ったり蟻に喰われてしまうようです。

そこで、杭を打って嵩上げをしてみることにしましたが、問題は杭の材料の手配です。

(1) 御前山ビオトープの間伐作業に参加

たまたま会員の一人が取り組んでいるビオトープで間伐作業の予定があり、作業に参加した後に伐った間伐材を無料で頂けることになりました。

3月20日、立沢里山の会の会員3名、軽トラックを含む二台の車で出かけてきました。場所は県北、那珂川の中流、栃木県との県境に近い御前山村、常磐高速道路を経由して一時間ちょっとの場所です。

「御前山ビオトープ」は農業用水を確保するために建設中の御前山ダムに関連して、水没地に生息している希少動植物を保護するために整備されたものです。

当日はビオトープ関係者や地元集落の人達20数名が参加しました。実質数時間の作業でしたが、軽トラック一台分の間伐材



を運んできました。

作業の合間に建設中のダム現場やちょうど咲き始めたカタクリの群落などを見学してきました。平地で都市部の守谷周辺と違って、このあたりは中山間地、過疎地ということですが、四季折々、ホタル、山野草、野鳥などが身近に見ることが出来ます。間伐だけでなく、今後も里山の会として山間地域の人々と交流することは重要な意味があると思いました。



(2) 木道嵩上げ作業

杭の手配ができたので、4月の田植えの準備作業の際に嵩上げ工事を施工することになりましたが、どうせ作業するならということ、池の上に木道を設置して橋の上から池を観察できるようにしよう。また前年設置した倉庫は風が吹く度にずれて傾くのでイベントステージを兼ねてデッキを作成し、倉庫をその上に固定することにしました。

池やデッキなどの杭打ち作業は難航し、カケヤは折れる、ドブにはまる、木道運搬する際に足を滑らせて泥だらけになる人も出て、かなり大変な状況となってしまいました。汗だらけ、泥だらけの作業でしたが何とか完了しました。ホントにホントにご苦労様でした。

特に、4月に新しく入会された皆さんには、早々に大変な経験をさせてしまって申し訳ありませんでした。これからもこんなことがちょくちょくありますのでよろしく!!

不耕起栽培について

1 不耕起栽培とは

「不耕起栽培」とは字の通り、耕さない農業、水田の場合は代掻きをしない稲作のことを言います。田んぼの中にはヤゴ、オタマジャクシ、メダカなど沢山の小さな動植物が生息していますが、代掻き作業は生き物にとっては住処が荒らされる大変なことなのです。不耕起栽培は代掻きをしないために、生き物に優しい農業であり、農家にとっても手間のかからない農業として、福岡正信さん(愛媛県伊予市)が提唱し、岩澤信夫さん(日本不耕起栽培普及協会会長)が改良した自然農法で、最近全国各地でとり組まれるようになりました。

2 不耕起栽培の効果

その中で意外なことも解ってきました。代掻きをしないと田んぼの土は長靴でも歩き回れるほど固くなります。稲は固い土でも生きるため、自力でしっかりと根を張り、多くの栄養を吸収しようと頑張ります。その結果、稲が本来持っていた生命力が引き出され、野生化して強くたくましくなります。農業が無くても害虫に負けず、冷害にも強く、干ばつ(水不足)にも強く、おいしい米ができると言われていています。家庭教育や学校教育でも似たことを考えさせられますね。人間も少しだけ厳しい課題を与えられるとたくましく成長するものだと思います。

農家にとっても、田起こしや代掻き作業が省けるだけでなく、雑草も減り除草の手間や農薬、肥料も削減でき経済的でもあることから、最近では不耕起栽培専用の田植機も開発され、大規模な稲作でとり組む農家も出てきました。

3 不耕起栽培による環境形成

不耕起栽培は収穫して終わるものではありません。収穫した後の田んぼに、稲わらや米糠を散布するなど出来るだけ田んぼから収穫したものは元に戻すことにしています。すると、これらが分解して肥料になり(資源循環)雑草も抑制されます。冬期に湛水すると更に多くの動植物が生息し、野鳥もやってくるなど多様な自然がみられるようになります。このような田んぼは食料という恵みを人間に与えてくれるだけでなく、多くの生き物にとっても安心して生息できる豊かな自然環境でもあるのです。

人間と動植物が共生できる田んぼとなるように皆で楽しくとり組みましょう。(OS記)



5 畦塗り、シロカキ作業、そして不耕起栽培

里山祭りの一環として祭り翌日の5月15日(月)に、昨年に引き続き近くの小学校の参加で田植えを実施することになりました。

田植えに向けて水路の補修、畦塗り、代掻きなどの作業も順調に進んでいます。

ただ、今回は出来るだけ生き物や環境にやさしい農業を実践するという考え方から、一部ですが下流側の二枚の田んぼは「不耕起栽培」に挑戦することにし、代掻きはせず、昨年の株間に田植えすることにしました。趣旨は前頁のとおりです。

6 「里山祭り」の企画内容

役員を中心に里山祭りの企画内容について検討を重ね、以下のように決定しました。

野で遊ぶ!野に学ぶ!野を食す!

《野で遊ぶコーナー》

草笛、笹舟、水鉄砲教室、ザリガニ釣り

《野に学ぶコーナー》

田植え体験、里山クイズラリー

《野を食すコーナー》

野草天ぷら試食コーナー、餅つき体験コーナー
チャリティー販売

《お楽しみコーナー》

ウエルカム案山子、ハッピープレゼント
と盛りだくさんの企画です。



7 立沢里山のパンフレット完成

「里山祭り」を前にして来場者などに「立沢里山」を紹介するパンフレットが必要と考えました。

予算の関係もありパソコンで手作りすることとしました。

皆で手持ちの写真を持ち寄り、イメージ図は会員の一人が子供の絵の具を借りて急遽描き上げたという代物です。A4版カラー両面印刷、三つ折り作業も全員の手作業でとりあえず400部作成しました。右の写真ですが出来映えはいかかですか

8 ザリガニの奇跡!

里山祭りに向けて、田んぼでは田植えの準備、周辺の草刈りなどの準備作業を進めています。里山祭りの趣旨に鑑みて、イベントの素材はできるだけ里山の中や周辺から調達することにしていきます。笹舟の笹、草笛のヨシ、タンポポはもちろん、野草天ぷらのためのセリ等は里山の中からいくらかでも採取できます。

水鉄砲のための竹は近くの野木崎集落の竹林から間竹を分けてもらいました。また水鉄砲の芯やザリガニ釣りの釣り竿用の篠竹は里山の中から採取しました。

ここで問題は肝心のザリガニです。4月ではまだ寒いのかあまり水路の中にも見かけません。どうしようかと思案している数日後、事務局から突然「奇跡が起きた!」とのメールが届きました。



ため池の出口に大量出現、しかも半端の数ではなく数百匹以上いると言うことでまたまた驚きました。

初めての里山祭りを御祝いしてくれた天の仕業かもしれないですね。これで、ザリガニ釣りの見通しも万全です。